

平成30年5月23日開催 小平市地域公共交通会議

1 日 時

平成30年5月23日（水）14時00分から15時00分まで

2 場 所

小平市役所6階 大会議室

3 出席者

小平市地域公共交通会議委員 12人
事務局（都市開発部 公共交通課） 3人
（傍聴者 1人）

4 会議次第

- 1 開会
- 2 小平南西部地域コミュニティタクシー実証実験運行について
- 3 小平市コミュニティバス、コミュニティタクシーの利用状況について
- 4 バスとタクシーのひろば in 小平 2018について
- 5 その他
- 6 閉会

5 配布資料

- ・小平南西部地域コミュニティタクシーの検討（資料1）
- ・小平南西部地域コミュニティタクシー実証実験運行について（資料2）
- ・鷹の台駅西側ルート案 全体図（資料3）
- ・小平南西部地域コミュニティタクシーを考える会 検討状況（資料4）
- ・小平市コミュニティバス（にじバス）乗車実績表（資料5）
- ・小平市コミュニティタクシー（ぶるべー号）乗車実績表（資料6）
- ・バスとタクシーのひろば in 小平 2018 実施報告

6 会議内容

都市開発部長の挨拶、出席委員及び資料の確認、傍聴者への対応

会長

それでは、平成30年度 第1回 小平市地域公共交通会議を始めます。
本日は、協議事項1点、報告事項1点で構成されております。
協議事項の、小平南西部地域コミュニティタクシー実証実験運行について、事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは協議事項、小平南西部地域コミュニティタクシー実証実験運行について、まずはこれまでの検討経緯等を資料に沿って説明申し上げます。

資料1をご覧ください。小平市では平成18年9月にお示した、市の公共交通に対する基本的な考え方として、市の東西を青梅街道、南北を西武多摩湖線で区切った、4つの地域それぞれにおいて、地域ごとのニーズに基づくコンパクトな地域内の生活交通として、コミュニティタクシーを支援すること、コミュニティタクシーの検討にあたっては、地域の住民等による「コミュニティタクシーを考える会」を組織して、地域特性にあったコンパクトな生活交通を構築することとし、「考える会」によりルート、停留所位置、ダイヤ、運賃などのサービスを検討し、「考える会」

による周知活動と、商店会などによる積極的支援に取り組むこととしました。

このような方針に基づき、市の北東部においては、平成 21 年 9 月からコミュニティタクシー大沼ルートを、市の北西部においては、平成 23 年 5 月からコミュニティタクシー栄町ルートを、市の南東部においては、平成 27 年 3 月からコミュニティタクシー鈴木町ルートを開始し、現在に至っております。また、本年 2 月開催の小平市地域公共交通会議においても経過報告しましたとおり、市の南西部において、平成 28 年 5 月に「小平南西部地域コミュニティタクシーを考える会」を組織し、毎月 1 回のペースで会議を開催して検討しています。

「小平南西部地域コミュニティタクシーを考える会」は、自治会、商店会、活動団体、事業者、教育機関、タクシー事業者、JA、商工会等 18 団体に参加いただき、この「小平南西部地域コミュニティタクシーを考える会」において、運行ルート・運行システムなどを検討してきました。

考える会における検討状況につきましてご説明いたします。資料 1 の 2 ページ及び資料 4 をご覧ください。

まず「小平南西部地域コミュニティタクシーを考える会」では、市から小平市のコミュニティタクシー運行事業の概要や、コミュニティタクシー運行事業に関する法律等の制約について説明をし、今後の進め方について議論しました。

コミュニティタクシー運行事業を実現するためには、資料 1 の 2 ページ下段に記載しておりますとおり、1 つとして、コミュニティタクシーの運行を理解していただける運行事業者の存在、2 つとして、既存のバス事業者、タクシー事業者の了解が必要であること、3 つとして、乗車人数の目標として 1 日平均 70 人に近づくような一定人数以上の利用者の確保、4 つとして、運行可能なルートは「車両制限令」に適合する道路に限られること、5 つとして、停留所付近、運行ルートの安全確保等についての審査があること、6 つとして、運行や停留所の設置には周辺住民の方の理解が必要であること、まとめとして、もっとも大切なことは、地域で積極的に、かつ継続的に利用されること、地域で支えることであり、これらの事項については、その後の「小平南西部地域コミュニティタクシーを考える会」でも度々振り返ることとしました。その他には、他の地域の「コミュニティタクシーを考える会」との意見交換を行い、議論を深めました。また、地域住民にアンケートを実施し、日常どの方面へ外出する機会があるのかといった、日常生活の実態を調査すると共に、運行中のコミュニティタクシーへの試乗を行いました。さらに小平南西部地域の公共交通等の現状を考えるため、この地域の交通等を自分の住まいや生活圏だけでなく、地域全体を考える作業をワークショップ形式で行いました。資料 1 の 2 ページ上段にワークショップの様子を写真で掲載しています。

鉄道駅から半径 500 メートル、路線バスの停留所から半径 200 メートルで円を描き、交通不便地域やアンケート結果を落とし込み、日中の公共交通等の現状について共通理解を深めました。その上で鉄道、路線バスを補完する、日中の生活交通であるコミュニティタクシーのルート等について検討しました。運行ルート、運行システム、実証実験運行期間の検討を現場の実測、関係各所への相談等を行いながら進め、本日の小平市地域公共交通会議において、委員の皆様にご協議いただく運びとなったところです。

今後の予定ですが資料 1 の 3 ページにありますとおり、本日の小平市地域公共交通会議で協議が整った後、運行事業者から路線の認可申請を行い、7 月下旬以降を目途として、実証実験運行を開始したいと考えております。なお、「小平南西部地域コミュニティタクシーを考える会」では、引き続き実証実験運行開始へ向けての準備、PR 方法についての検討等を行う予定でございます。

これまでの検討経緯と今後の予定の説明は以上でございます。続いて、委員の皆様にご協議いただく内容を説明申し上げます。資料 2 をご覧ください。

1 点目の実証実験運行の目的についてです。小平市南西部地域のコンパクトな生活交通を確立するため、平成 28 年 5 月から、地域住民などで組織される「小平南西部地域コミュニティタクシーを考える会」において、移動における課題や需要を整理しながら、ルート案及び運行システム案について検討してまいりました。これらの案に沿った実証実験を通して、さらなる検証を行うことを目的とします。

2 点目の実証実験運行システム等についてです。時間帯や停留所別の乗降状況を把握するため、

資料3でお示しております運行ルートを一定期間、案として6ヶ月間、実証実験運行を行いたいと考えております。

運行ルートにつきましてご説明いたします。資料3をご覧ください。

西武国分寺線鷹の台駅北側を出発し、駅前の商店街を通り、一度国分寺市北町内に入ります。そこから北に向かい玉川上水沿いを通り、立川市との市境を抜け、上水新町地域センターを経由した後、社会福祉法人黎明会の敷地内を通過します。その後は立川通り、青梅街道を通り、再び住宅地内に入ります。小平第五中学校、創価学園周辺を通り、鷹の台駅に戻るルートとなっています。

当該地域は狭い道路が多く、ルートを検討する上で運行できるかどうか大きな課題となりました。特に停留所⑤と⑥の間の玉川上水沿いの道路、及び停留所⑫と⑬の間の道路は幅員が狭いことから、交通管理者と協議を重ね、運行にあたり十分な交通安全対策を実施することとしました。なお、停留所の位置につきましては、現在近隣住民に了承を得ている途中の箇所もございますことから、本日の地域公共交通会議でのご意見を含め、今後、若干の調整や減等を行うこともございます。

資料2に戻りまして、2点目実証実験運行システム等についてですが、運行期間は、小平市地域公共交通会議で協議が整った後、運行事業者から路線の認可申請を行い、7月下旬以降を目途として、実証実験運行を開始したいと考えております。その場合の目途として、平成30年7月30日から平成31年1月29日までの6カ月間を考えています。

運行システムは、ワンボックス車両1台による定時・定路線運行、運行日は月曜日から金曜日までとしますが、祝日と12月29日から1月3日までの年末年始は除きます。

運行時間は、鷹の台駅9時10分発を始発便とし、最終便18時10分発まで30分間隔、1日19便とします。乗車定員は乗客9名、運行車両はニッサンキャラバンで、これまでの他の地域のコミュニティタクシー実証実験運行と同様、移動円滑化基準適用除外の認定を受けたいと考えております。

予備車両は運行事業者が管理する同等車両とし、乗車定員が超過する際は他の地域のコミュニティタクシーと同様、追走により対応するものとします。

運賃は今回の実証実験運行が運行距離や運行時間帯、運行間隔など、他の地域のコミュニティタクシーのサービスレベルが同等であることから、他の地域のコミュニティタクシーの運賃と同じ、大人運賃150円、子ども(小学生)運賃80円、未就学児は無料とします。また利用促進を図るため1日乗車券を設け、大人400円、子ども200円とします。

運行収支として運行経費のうち運賃収入等で賄えない部分は、予算の範囲内で小平市が補填するものとします。

運行事業者は、小平交通有限会社様としております。なお、運行事業者の選定にあたっては、業務を請け負う事業者の運行に係る安全対策をはじめとして、運行経費以外の要素を含めて総合的に判断する必要があることから、国土交通省「コミュニティバスの導入に関するガイドライン」並びに「小平市プロポーザル方式による契約事務運用ガイドライン」に準じ、あらかじめ定めた評価基準により評価し、最優秀提案を決定する提案書募集方式によって選定しました。

最後になりますが、小平南西部地域コミュニティタクシーを考える会では、今回お示ししました鷹の台駅西側ルート案のほかに、鷹の台駅東側地域においても、コミュニティタクシーによる実証実験運行を検討しています。今後、停留所を含めたルート案が決定した段階で、別途地域公共交通会議において協議していただく予定でございます。

ご協議いただく内容の説明は以上です。よろしくご協議の程、お願い申し上げます。

会長

ただいま小平南西部地域コミュニティタクシーの実証実験に関して説明がございましたけども、何かご意見、あるいはご質問等はございますでしょうか。

委員

新しいルートなんですけども、交通事情にもよるでしょうけども、一周どのくらいの時間がかかるものなのでしょうか。

事務局

この一周につきましては距離にして6.8 km、我々で実際に軽自動車ですけれども計ったところ、約23分で回れるルートになります。

委員

停留所の位置をみると、間が短いところとちょっと長いところがあるのですけれども、例えば3から4がちょっと長めかなとか、9から10がちょっと停留所までが長い気がする、他4、5、6とかは停留所の距離が短いような感じがする。これは色々な問題ですとか、施設等の絡みで設置されているものと思いますが、既に住民の方から同意を得ているものと考えて良いのでしょうか。

事務局

停留所の位置につきましては、考える会の方で色々案を出していただき、皆さまの地域のこの辺りに必要という意見をいただきまして設置をいたしました。その後、警視庁の現場確認等がございまして、例えば住宅の車庫からの出入りに支障があるので、ここには設置はできないですとか、交通の妨げになる部分についても停留所を減らした方よいのではないかというご意見もございました。それから停留所の間隔がやはり近すぎるということで、おおむね300mくらいの距離感があった方がよいのではないかということで、今のところ、この案を提示させていただいております。まだ、確定した位置でない部分もございますので、その辺りは近隣の住民の方と調整させていただき、進めたいと思っております。

会長

私から1点だけ、狭隘道路の所に安全対策を施したということでありましたが、具体的にどういう方法をとったか、御説明はありますか。

事務局

具体的には、狭い道路の部分に入る手前といったところに、「譲り合いで通行しましょう」ですとか、「確認しましょう」といった看板を設けて、スムーズな運行ができるように注意喚起など促していきたいと思っております。

会長

特にたとえばカーブミラーを増設するとかそういったことはないのでしょうか。

事務局

看板と路面標示、それに加えて、運行事業者さんにこの地域を回るために必要な安全運行マニュアルを作成していただきました。またこの狭いところの途中にちょっと広くなった退避場所のようなところがありますので、そこを活用できないかということで、その民地を持っている方のところに行きまして、退避所として一時利用させて下さい、というようなこともお願いしております。

ミラーにつきましては、場所的に設置ができないのと、途中に入るような道がないことから、設置については特段今回は実施しないところでございます。

委員

試行運行ということなんですけども、6か月実施した上で本格運行にする基準はどんなものかを考えているのでしょうか。

事務局

まず一定以上の乗客の方々に利用していただいたかどうか実績をとります。それから運行上特に安全面に関して支障がなかったかどうか、時刻表どおりに運行ができたかどうか確認していきたいと思います。

委員

一定以上の乗客というのは、1か月平均なのか全体を通してなのか、具体的な数値とかは検討はされていらっしゃるのですか。

事務局

私どものコミュニティタクシーというのは、1日平均70人以上というのを目標としております。ただ、実証実験というのは地域の皆様に認識されていないということもあり、実験の段階で70人というのは難しいのですけれども、それに近いような、たとえば50人くらいとかそういったところまで実績が残せるのであれば、そのルートはかなり今後ご利用いただけるものになるのではないかと考えております。

会長

その本格運行に移行するタイミングはどのようにお考えになっているのですか。6か月実験運行をやる、今までのルートにおいては、いったん実験運行を終えたあと、間をおいてその間準備をしてという形をとっているところもあるのですが、そういう形で行くのか、あるいは、やりながら評価をしていってなるべく継続できる形でやるのか、その辺はどうでしょう。

事務局

こちらの地域は鷹の台駅の西側ルートと鷹の台駅の東側、町名で言いますと上水本町という地域がありまして、そちらでも、もう1ルート実証実験をやりたいと考えております。そちらですが、駅の東側につきましては運行上課題がありますことから今回お示しできなかったのですが、しかるべき時期になりましたらお示しして、またご協議をいただきたいと思っております。こちらのルートが6か月と上水本町の方も6か月行いまして、どちらが乗ったということを確認しながら、どちらのルートを本格運行に持っていくのか考える会で検討していきたいと思っております。実際の実証実験運行が2ルート1年間終わったあとで、検討する時期をおきまして、どちらのルートを本格運行にするのかしないのか、するのであればどちらのルートをするのか検討していきますので、連続性という観点からは少し無理ではないかと考えております。

会長

南東部と大体似たようなパターンで進めるということですか

事務局

以前、この前に南東部地域でも3つのルートで運行いたしまして、すべてのルートの実証実験が終わった後に、考える会でどのルートにするか話し合ったり、実証実験で乗らなかったところを修正したり一定期間ございましたので、今回もそのようになるのではないかと考えております。

委員

実証運行から本格運行への指標として一日平均70人とありましたが、ほかの地域公共交通会議では収支率という数字が当然市の予算でありますから議題に上がってくる訳です。その辺については特にイメージとかはあるのですか。70人という数字がある程度収支が見込まれる人数になっているのですか。もし分かればお聞かせいただければと思います。

事務局

小平市のコミュニティタクシーについては、4つの地域に分けているのですが、1地域500万円程度という市からの枠を設けております。その500万円に収めるためには70人くらいが

乗らないと難しいかなと考えております。ですから70人という数字の根拠につきましては、市からの補助金を500万円程度に収めるための数字として考えた訳です。収支率は検討の材料ではないのですが、500万円という枠で考えているのが一日平均70人という数字になっています。

委員

タクシー業界としては小平交通さんという事業者がやられている訳ですが、運行収支のところでは資料2を見ますと、予算の範囲内で小平市が補填するというので、それを出た場合は事業者負担という形になると、なかなかタクシー事業者も多摩地域においては厳しい状況にございますので、なるべく収支がつりあうような形で運行ができればと願っております。

事務局

実際の運行に関しましては、新しいルートというのは70人以上の目標をクリアするのはなかなか難しいと考えております。これまでも、すぐに目標を超えた路線となかなか超えなかった路線というのがございます。市の補助金が500万円程度ということで、ある程度幅を持たせて考えております。70人以上乗らなかったルートがすぐに廃止になるか、補助金を上回った場合、すぐに事業者負担になるかということは別途検討になるのですが、なるべく70人に達するように、私どもの方で様々な広報をしたり、考える会の地域の皆様と協力して広報物を配ったり、掲示板に貼ったり、場合によってはルートを見直してみたり、停留所の位置を変更してみたりとかそういった方策を考えながら目標に達するように努力したいと考えております。

会長

特に今までのところ、否定的なご意見は出ていないのですけれども、この案に従って、コミュニティタクシーの実証実験運行を行うということで、皆さんの合意をいただけるということで判断してもよろしいでしょうか。

委員

異議なし。

会長

ありがとうございました。それではこの案に従って準備を進めていただき、南西部地域コミュニティタクシーの実証実験運行の準備に伺っていただきたいと思いますので、事務局、事業者の皆さんはよろしく願いいたします。

それでは、協議事項につきましては、この1点でございますので、この後は報告事項に移らせていただきます。まず、報告事項「小平市コミュニティバス、コミュニティタクシーの利用状況について」事務局より説明をお願いします。

事務局

コミュニティバス、コミュニティタクシーの利用状況につきまして報告いたします。はじめにコミュニティバスの利用状況です。資料5をご覧ください。

平成15年度から29年度までの月ごとの乗車人数と1日平均乗車人数を示しております。年間で約25万人、1日平均で660人から670人と安定しております。平成29年度は前年度に比べ3,917人、1日平均では10.7人の増となりました。裏面には乗車人数の推移をグラフにしたものを掲載しております。運賃を現在の150円に改定した平成19年度以降横ばいになっており、安定した乗車があることがうかがえます。コミュニティバスは今年度運行開始から15年となり、地域の足として定着しているものと考えております。

次にコミュニティタクシーの利用状況についてご説明いたします。資料6をご覧ください。

コミュニティバスと同様に、各ルートの平成21年度から平成29年度までの乗車状況を、また右側のグラフは各ルートの乗車人数の推移を3本の線で表しております。右上のグラフからどのルートもほぼ右肩上がりであることがわかります。コミュニティタクシーは1日の乗車人数70人以上を目標にしておりますが、平成29年度は全てのルートで目標を達成しております。平成29年度の各ルートは、大沼ルートが若干減少したものの依然として1日平均90人以上の乗車があり、栄町ルートは1日平均100人を超え、定員を超えた際の追走車両が年間98回、週に1～2回程度運行しております。

鈴木町ルートは、平成26年度の運行開始以降毎年着実に乗車人数が増え、平成29年度は1日平均85人の利用がありました。鈴木町ルートにつきましては、運行開始から3年が過ぎ、この地域の方々に交通手段としての認識が広がっているといえます。

コミュニティバスやコミュニティタクシーの乗車人数は、天候により大きく増減いたします。平成29年度は10月に雨の日が多かったこと、また1月には大雪に見舞われたことにより外出の際にコミュニティバスやコミュニティタクシーを利用した方が多く、利用者数の増につながったと考えております。

今後も引き続き多くの方に利用していただけるよう、利用促進等に努めてまいります。報告は以上でございます。

会長

それではただいまの報告について、何かご質問等がございましたら、あるいはご感想等がございましたらいかがでしょうか。

小平市のコミュニティタクシーは非常に、全国的にみても、高い実績を上げているケースです。一般的に乗合タクシーの事業で、一日平均50人いけばかなりいい成績なんですね、全国的に見渡してみると。そういう意味では70人という目標もかなり高い目標ではあるのですが、それをクリアして、おそらく、全国で一日あたり100人を超えているケースはないのではないかと思います。そういう意味ではやはり地域ぐるみでやっているというのが大きな要因ではあると思いますが、かなり高い実績をキープしつつ継続されているということは言えるのではないのでしょうか。

特にご質問等なければ報告事項につきましては、今後も見守っていただけたらと思います。

要望なのですが、月別の数字をできれば資料として出していただければ、先ほど雪がどうだった、雨がどうだったということは月別の数字を見れば出てくることだと思いますので、できれば月別の数字などを資料として出していただけると参考になるのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局

分かりました。

会長

それでは、続きまして、報告事項「バスとタクシーのひろば in 小平2018について」事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは、平成30年5月19日にブリヂストン TODAY 駐車場で開催されました「バスとタクシーのひろば in 小平2018」についてご報告いたします。

「バスとタクシーのひろば in 小平2018」実施報告の資料をご覧ください。

このイベントは、バスやタクシーなどの公共交通をPRするイベントとして平成26年から始まり、今回で5回目の開催となりました。本日、ご出席の事業者の皆様をはじめ、鈴木会長にも企

画、準備から当日までご協力いただきました。誠にありがとうございました。

今回は、これまで時期を離して開催されていたブリヂストンの製品等を販売するイベントの「ブリヂストンフェスティバル」が、道路を挟んだ向かい側で同日に開催されました。

当日は、2つのイベントが開催された相乗効果と天候に恵まれたこともあり、家族連れを中心に約3,200名の方々にご来場いただきました。

会場のイベントの様子は、資料2枚目の写真をご覧ください。

各バス会社様、タクシー会社様のご協力のもと、バス7台、タクシー7台を展示しました。また、小平警察署様より白バイを1台、新東京自動車教習所様より二輪と四輪各1台の教習車をご協力により展示しました。

子どもたちは、バス会社様でご用意いただいた制服を着て、写真を撮られたり、運転席に座られたりと楽しまれておりました。また、タクシーの運転席に座り、タクシーメーター等に触れたりと普段できないような体験もしていただきました。

当日実施した催しを幾つかご照会いたしますと、去年は雨のため中止となってしまった「バスとつな引き」では、つなを掛けた京王バス様の車両を子どもたちが力を合わせて引っ張ると、バスがゆっくり動き出し、大きな歓声が湧き上がりました。

また、鈴木会長より、バスの乗り方教室を実際の車両を使用して実施していただきました。

「鉄道模型ジオラマ展示・体験運転会」は、ブリヂストン TODAY の館内で実施しました。ジオラマを見るだけでなく、運転を体験することができるので、夢中になって操作しているお子さんが大勢いらっしゃいました。

「コミュニティタクシーにお絵かき」は、「つな引き」同様去年は雨で中止となってしまった催しです。今回は多くのお子さまが、カバーをかけたコミュニティタクシーの車両に思い思いの絵を描いていました。

「キャラクターと遊ぼう」では、西武バス様、関東バス様、京王バス様のご協力のもと、キャラクターのエンジェ、かんにゃん、ピンポンに出てきていただき、子どもたちと写真撮影など交流をしていただきました。

「こだ健体操教室」は、小平市役所健康推進課の協力のもとに行いました。こだ健体操とは、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を予防し、健康寿命を延ばすことを目的とした小平市のオリジナル健康体操です。コミュニティバスの「にじバス」の車体に「こだ健体操」のPRデザインをしている関係で、去年に引き続き実施いたしました。

「バスとつな引き」、「こだ健体操教室」では、小平市の地域宣伝隊コダレンジャーが参加したことで大いに盛り上がをみせておりました。

また、「プレゼント付きアンケート」により、ご来場者の方々からの意見、感想を集めました。この「プレゼント付きアンケート」の実施にあたりましては、事業者の皆様からプレゼント用のグッズを多数ご提供いただきました。ありがとうございました。

各事業者の皆様と、コミュニティタクシーを考える会等の市民の皆様のご協力により、多くの方々にお楽しみいただき、公共交通を十分にPRすることができたことは、一定の目的を果たせたものと感謝しております。

誠にありがとうございました。報告は以上になります。

会長

今年は非常に天候に恵まれて、毎年私は晴れ男だと言っていたのですが、去年は崩れまして今年も土曜日に限って、週間予報の段階では、土曜日だけが悪い予報だったものですから、これで降ったらまずいなと、あわせる顔がないなと思っていたのですが、お蔭様で天候がよくなりました。

て、ここに出ているように多くの方特に親子連れの方の比率が非常に高いイベントになったと思いました。いまの説明についてご質問とか感想とかがあればいかがでしょうか。

委員

先ほど、ぶるべ一号が好調と会長からお話がありましたが、このイベントの影響も大きいのではないかと感じております。ぜひ、継続していただいて、市民の方々にタクシー慣れ、バス慣れしていただければ、気軽に利用していただけるようになると思いますので、ぜひ継続していただければと思います。

会長

おそらくこれだけタクシーが表にでたイベントってそうそうはないはず。バスのイベントというのはバス会社主催でやるケースもあったり、バス協会主体でやったりするケースもある訳ですけど、なかなかタクシーがいるという、独自のイベントはあまりないので、こういった形でバスとタクシー両方がアピールできるイベントというのは全国的にも珍しいと思いますし、あれだけ様々な種類のタクシーが集まってくると、そのことに驚いている参加者もけっこういると聞いていますので、ぜひ今後もああいう形でできればと思っています。

実際に出展されたバス事業者さんはなにかございますか。

委員

昨年度は残念な雨でしたが、今年はお子さんが大勢いらっしゃたのと販売の方も昨年度と比べると倍以上ありましたので、ありがとうございました。

委員

昨年は雨でしたが今年は晴れが戻ってきましたので、売り上げも倍、3倍ぐらいになりましたので、大変PRに貢献できたなど。

委員

今回天候に恵まれたというところは同じく言えるところだと思います。また、サンエックスさんのリラックマをラッピングした黄色の車ということで、今回は中型の緑色の車を持ってきましたが、また、来年以降開催されるのであれば、私どもも今年違うラッピングをやってみようかなと思っていますので、その辺を上手く出展できれば。

委員

今までこのイベントに出たことはないのですが、飲食とかそういったものを出すとか、そういった考えは。

事務局

今回このイベントは5回目になるのですが、過去の3回目ぐらいまではかなりアンケートのご要望で飲食のスペースとか販売をすごく求められていたところがあったんですが、実は、会場をお貸しいただいておりますブリヂストンさんの方から飲食で会場内を管理することが難しいのではないかとということで、なかなかそのあたりが上手く調整できなかつたりしていましたが、今回に関しては同日に開催したブリヂストンフェスティバルさんの方で、飲食の模擬店を出していただいていたので、そのあたりはある程度ご要望にはお答えできたのかなと考えておりますが、これが毎回同日開催になるかどうかは不透明なので、もし単独開催の時にはまた、何か工夫を可能な範囲で考えております。

委員

飲み物があったり食べる物があったりすると、人もそれ以上に倍ぐらいには集まってくるのではないかとったりしました。

事務局

もし、検討の際にはご相談させていただくかと思しますので、よろしく願いいたします。

委員

こういうイベントで、今運転手不足ということもございますので、小さなお子様とか参加していただいて、将来の夢としてバスの運転手さんとかタクシーの運転手さんとかになっていただいたら良いかなと思しますので、今後もこういう形で進めていただければと思っておりますのでよろしく願いいたします。

会長

まだ、決まったわけではありませんが、今後反省会等があったりした中で、次に向けての話が出てくるのかもしれませんが、これまでのところ、ずっと来場者も上向きに来ておりますし、非常に楽しみにしてくださっている市民の方がいらっしゃるといことは、ここ2、3年のところでもかなりはっきり分かってきましたので、たぶん継続ということで、市の方も考えていただけるのではないかなと思っているのですけれども。

今後に向けて、こういう機会というのは非常に大切なことで、楽しんで親しんでもらうということは特に交通の場合、普通に使っている人、それから普段そうそう使っているわけではないけれども意識をしてもらうことによって、使う機会に繋がっていくというような観点からすると非常に良い機会だろうと思っておりますし、なるべく継続をするということで、私もアピールをしていきたいと思っておりますので、今後とも協力をできればと思っております。

それでは報告につきましては終わらせていただきます。

議題については、ここまでですが、その他何かありますでしょうか。

事務局

事務局からは特にございません。

委員

次回から名簿を付けていただけると。人の異動とかもあって代わられていることもあるので、名簿をお願いいたします。

事務局

次回からご用意させていただきます。

会長

それでは本日予定しておりました議事はすべて終わりましたので、以上で平成30年度第1回小平市地域公共交通会議を閉会させていただきたいと思っております。

長時間に渡り、熱心なご議論を頂きましてありがとうございました。